

# あけまして おめでとう ございます

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様には、輝かしい新春を家族おそろいで健やかに迎えることと、お慶び申し上げます。さて、昨年は、1月1日に1市3町が合併し、人口10万6千人を擁する大隅の新たな拠点都市、新「鹿屋市」が誕生するという、地域にとって歴史的な出来事で幕を開けました。このことは、市民の皆様のご理解とご協力のもとに成し得たものと深く感謝しております。

この一年を振り返りますと、地域協議会の設置や日本一の規模を誇る「かのやばら園」のリニューアルオープン、さらに、三企業との新たな立地協定の締結や地域包括支援センターの開設など、合併後の新市の早期一体化を図るための取り組みや地域資源を活かした産業振興、交流促進による活性化、福祉の充実などを進めてまいりました。

また、米軍空中給油機移駐問題や路線バス廃止問題をはじめとする市民の安心・安全な生活の確保に関わる様々な問題に対しては、地域の声に耳を傾けながら積極的に取り組んでまいりました。

このような中、7月には全国高校野球選手権鹿児島県大会において鹿屋高校野球部が準優勝、また、8月には平成18年度全国高校総体（インターハイ）において鹿屋中

央高校女子バレー部が悲願の全国優勝を成し遂げ、「健康・スポーツ都市かのや」の名を全国に情報発信することができました。

本年は、中心市街地再開発ビル「リナシティかのや」や鹿屋市産業支援センターがオープンするほか、日本一のグラウンド・ゴルフ場のオープンも予定しております。さらに本年は、平成20年度から今後10年間の鹿屋市の市政運営の羅針盤となる「鹿屋市総合計画」を策定することとなっております。

三位一体改革の推進や地方交付税の削減など、本市を取り巻く環境はますます厳しくなることが予想されます。これを踏まえ、これまで以上に地域の特性を最大限に活かした地域活性化を一層進めてまいります。また、市民の皆様のお知恵をいただきながら、さらなる行財政改革を断行していくとともに、「地域のことは、地域自らの手で」という共生・協働のまちづくりを進め、時代潮流に合致する足腰の強い自立した自治体の創造を実現してまいりたいと考えております。

本年も、市民の皆様の益々のご健勝を心から祈念いたしますとともに、さらなるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

鹿屋市長  
山下 崇

大塚山公園(串良町有里)から見る朝日



輝北運動場では、「初日とともに走ろう会」が開催され、約100人が、初日の出とジョギングを一緒に楽しみました。



大隅広域公園では、干支のイノシシをモチーフにした立体花壇が、来園者を出迎えました。



田崎町の七狩長田貴神社では、初詣に訪れた人が長い行列をつくりました。



高隈山系の御岳には、約30人が登山。山頂から初日の出を楽しみました。



吾平山上陵には、正月三日で、約24,500人(警察発表)が初詣に訪れました。



霧島ヶ丘公園には、約200人が訪れ、初日の出を楽しみました。

## 新春の鹿屋